

■分科会

②「尾瀬の楽しみ方」

吉田 理一(テーマリーダー)

第二分科会は尾瀬高校の女子生徒二名を含め一四名の参加者で和やかに行われました。

最初に自己紹介をかねて、全員からお住まいと尾瀬に関する事を感想・想い・思い出・期待など何でも良いので一言ずつコメントをしていただきました。

遠く福岡・徳島・京都からの参加者もいらっしやいました。また尾瀬は今回が初めてというご夫妻から「昔浮島に乗って遊んだことがある」というビックリする体験をお持ちの方、尾瀬でのボランティア活動に参加している方、環境省ビジターセンターでお仕事をされている方、尾瀬ガイド協会の認定ガイドとしてガイド活動をしている人など住所も世代も尾瀬の訪問歴も様々な方々が集まった分科会でした。

参加した高校生からは「将来は自然と関わる職業に就きたい」という発言もありました。

「木の目草の芽」一月号に、第二分科会としての討議資料を四項目ほどあげておきましたので概ねそれに基づいた討議をして

いただきました。

まず「基調講演」小泉武栄先生のお話について。先生の講演には「尾瀬の花」については少しもふれられなかったが、花以外にも森の中にももつといるような楽しみ方があることが分かった。という感想が述べられました。

以下参加者からの発言内容を記してみます。○ウィークデイに訪れゆっくりと見学したい。○隠れたスポットを訪れば尾瀬の見方も変わり、その奥深さが実感できる。○木道の休み場所、待機場所が少なく説明する場所がもつとあった方がよい。○尾瀬の入口しか見てない人が多い、バラエティに富んだコース、例えば至仏山の森林限界までのコースも楽しんでみたら。○武田久吉博士のメモリアルパークのようなものが枝岐村にあるが利用しづらくもつたいない。○裏燧の良さも楽しんでもらいたい。○桧枝岐から入山する場合「里の魅力」を知ることで80パーセントは尾瀬の旅が達成されたと言ってもよい。○小学生の尾瀬学習が実施されているが自然保護の大切さを考える大変良い企画である。

最後に高校生お二人からこの集会の感想を率直に語っていただきました。



◎結論 年間約30万人の尾瀬入山者の大部分は鳩待峠から上田代、沼山峠から尾瀬沼までのコースで終わっている、大変勿体無い事です。①尾瀬ならではの珍しい植物や広大な湿原の四季折々の自然を楽しむ。②東北地方の最高峰「燧ヶ岳」、高山植物の宝庫「至仏山」の名山を楽しむ。③群馬・福島・新潟の各登山口の文化・歴史を味わいながら尾瀬を楽しむ。④古いガイドブックに「アヤマ平と三条ノ滝を見ずに尾瀬を語るな」という文章がありました。山小屋に泊まり沼・原以外の尾瀬を心ゆくまで楽しむ。⑤「日本百名山」、「尾瀬と鬼怒沼」、「尾瀬山小屋三代の記」、「尾瀬に死す」、小

学生向けの「ミズバシヨウの花いつまでも」など尾瀬に関する書物に示されている先人の苦労や名文を読むことにより、より一層尾瀬への理解を深める。